Pioneer sound.vision.soul

5.1chサラウンド・システム

HTP-S1

インターネットによる登録のお願い

http://www3.pioneer.co.jp/

お買い上げの製品について、上記URL「お客様のページ」でお客様登録をお願いします。

この「お客様のページ」は、お客様とのコミュニケーションを目的としたウェブサイトです。新規登録されたお客様にはID・パスワードを発行させていただき、新製品のカタログや取扱説明書のダウンロード、メールマガジンの購読など各種サービスをご利用いただけます。

取扱説明書

このたびは、パイオニアの製品をお買い求めいただきましてまことにありがとうございます。本機の性能を十分に発揮させて効果的にご利用いただくために、この取扱説明書をよくお読みになり、正しくお使いください。特に「安全上のご注意」は必ずお読みください。なお、「取扱説明書」「安全上のご注意」は、「保証書」と一緒に必ず保管してください。

安全上のご注意（絵表示について）

この取扱説明書および製品への表示は、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。
内容をよく理解してから本文をお読みください。

警告

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

注意

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が損害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

絵表示の例

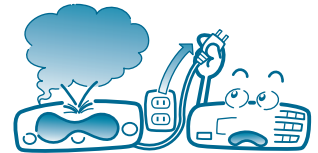
△ 記号は注意(警告を含む)しなければならない内容であることを示しています。
図の中に具体的な注意内容(左図の場合は感電注意)が描かれています。

⃠ 記号は禁止(やってはいけないこと)を示しています。
図の中や近くに具体的な禁止内容(左図の場合は分解禁止)が描かれています。

● 記号は行動を強制したり指示する内容を示しています。
図の中に具体的な指示内容(左図の場合は電源プラグをコンセントから抜く)が描かれています。

警告[異常時の処理]

プラグを抜く

● 万一煙が出ている、変なにおいや音がするなどの異常状態のまま使用すると火災・感電の原因となります。すぐに機器本体の電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。煙が出なくなるのを確認して販売店に修理をご依頼ください。お客様による修理は危険ですから絶対おやめください。

プラグを抜く

● 万一内部に水や異物等が入った場合は、まず機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

プラグを抜く

● 万一本機を落としたり、カバーを破損した場合は、機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

● 電源の供給を完全に停止する為には、電源プラグ（遮断装置）を抜く必要があります。万一の事故に備え、本機を電源コンセントの近くに設置し、電源プラグ（遮断装置）に容易に手が届くように設置してください。

● 機器本体の電源スイッチを切っても、電源の供給は停止しません。電源の供給を完全に停止する為には、電源プラグ（遮断装置）を抜く必要があります。旅行などで長期間、この製品をご使用にならないときには安全の為必ず電源プラグ（遮断装置）をコンセントから抜いてください。火災の原因となることがあります。

プラグを抜け

⚠ 注意

● 表示部が消えていても電源の供給は停止しません。電源の供給を完全に停止する為には、電源プラグ（遮断装置）を抜く必要があります。旅行などで長期間、この製品をご使用にならないときには安全の為必ず電源プラグ（遮断装置）をコンセントから抜いてください。火災の原因となることがあります。

プラグを抜け

もくじ

お使いになる前に

各部の名称とはたらき

接続

基本的な使いかた

サラウンドの設定

いろいろな使いかた

その他

本機の特長

ホームシアターの実現

◆ **ドルビーデジタル、DTS デコーダー搭載(27 ページ)**
ドルビーデジタル音声やDTS音声で収録されている映画や音楽ソフトを臨場感豊かに再生することができます。映画館やコンサートホールの迫力をご家庭で手軽に楽しむことができます。

◆ **MPEG-2 AAC デコーダー搭載(27 ページ)**
BS デジタル放送のサラウンド音声もマルチチャンネルサラウンドで楽しむことができます。

◆ **ドルビープロロジック II 回路搭載(27 ページ)**
2チャンネルステレオ音声やドルビーサラウンド音声で収録されたソフトもマルチチャンネルサラウンドで楽しむことができます。

簡単便利！！

◆ **ルーム設定でリスニング環境の簡単設定(16 ページ)**
本機のルーム設定ではお部屋のサイズ(ルームサイズ)や視聴位置(リスニングポジション)を選んでサラウンド環境を簡単に改善することができます。このルーム設定では「難しい」と思われがちなホームシアターの設定も簡単に行うことができます(ご自分でより細かく設定することもできます)。

バラエティ豊かなホームシアター

◆ **豊富なサウンドモード(22 ページ)**
映画や音楽だけでなく、テレビやゲームなど、お聴きになるソフトに合わせたサウンド効果を加えることができます。

環境に優しく

◆ **省エネルギー設計**
本製品は、待機時(スタンバイ時)消費電力を 1W 以下に抑えた設計となっております。

メモ

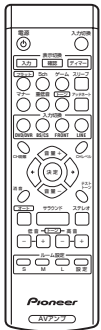
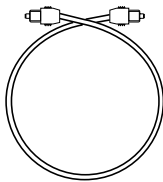
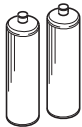
▼ **ご覧になりたい項目を早く見つけたいとき**

- 「目的別索引」⇒ 31 ページ
- 「各部の名称とはたらき」⇒ 8 ページ
- 「故障かな？と思ったら」⇒ 29 ページ

お使いになる前に

付属品を確認する

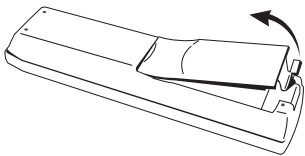
[VSA-S1 アンプに付属]

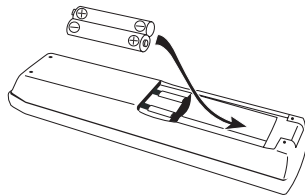
リモコン× 1

光デジタルケーブル× 1

単３形乾電池(R6P)× 2

- 保証書
- 安全上のご注意
- 取扱説明書(本書)

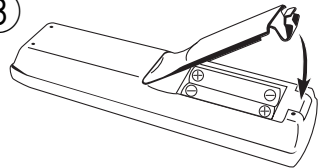
[S-S1 スピーカーシステムに同梱]

- センタースピーカー × 1
- フロント / サラウンドスピーカー × 4
- サブウーファー × 1
- スピーカーコード
  5m（赤色のフロントスピーカー用）× 1
  5m（白色のフロントスピーカー用）× 1
  5m（緑色のセンタースピーカー用）× 1
  10m（青色のサラウンドスピーカー用）× 1
  10m（灰色のサラウンドスピーカー用）× 1
  5m（紫色のサブウーファー用）× 1
- 滑り止めパッド × 20

リモコンに電池を入れる

①

裏ブタのタブを押しながら矢印の方向へ開く

②

ケース内に表記されている極性 ⊕(プラス)/⊖(マイナス)を合わせて乾電池を正しく入れる

③

フタを矢印の方向に閉める

注意

- 新しい乾電池と一度使用した乾電池を混ぜて使用しないでください。
- 乾電池は同じ形状でも電圧の異なるものがあります。種類の違う乾電池を混ぜて使用しないでください。
- 長い間(1ヵ月以上)リモコンを使用しないときは､電池の液漏れを防ぐため､乾電池を取り出してください。もし、液漏れを起こしたときは、ケース内についた液をよく拭きとってから新しい乾電池を入れてください。
- 不要になった電池を廃棄する場合は、各地の地方自治団体の指示(条例)に従って処理してください。

メモ

▼ リモコンの操作範囲が極端に狭くなってきたら、電池を交換してください。

設置について

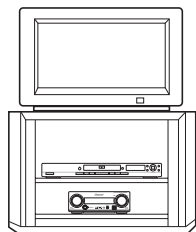
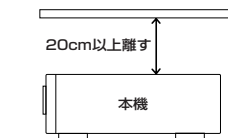
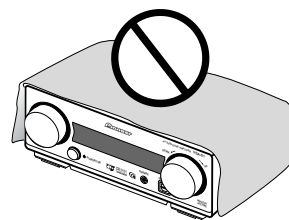
アンプを設置する場所について

振動や衝撃が加わらない、水平で安定した場所に設置してください。以下のような場所の設置は避けてください。

- テレビやカラーモニターの上
  (映像が乱れたり、歪んだりすることがあります *1。)
- カセットデッキなどのそば
  (カセットデッキなど、磁気の影響を受けやすい機器を本機のそばで使用すると雑音などを発生する場合があります *1。)
- 直射日光のあたる所
- 湿気の多い所や風通しの悪い所
- 極端に暑い所や寒い所
- 振動のある所
- ホコリの多い所
- 油煙、蒸気、熱のあたる所(台所など)

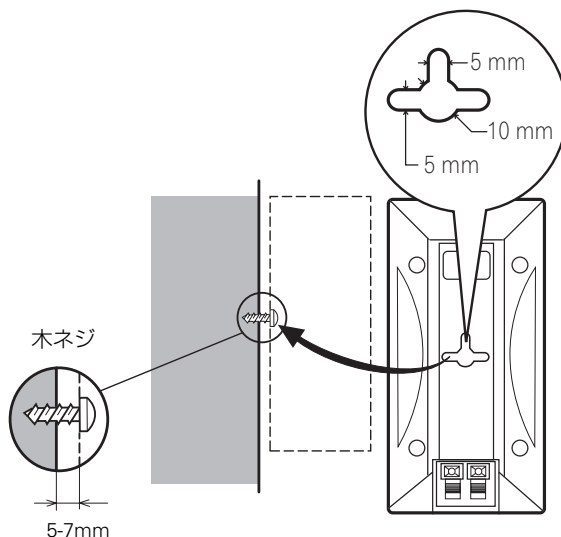
*1 *これは、アンプのトランスによるリーケージフラックス(漏れ磁束)の影響によるものです。このようなときは、設置する場所を変えるか、これらの機器を本機から離して設置してください。*

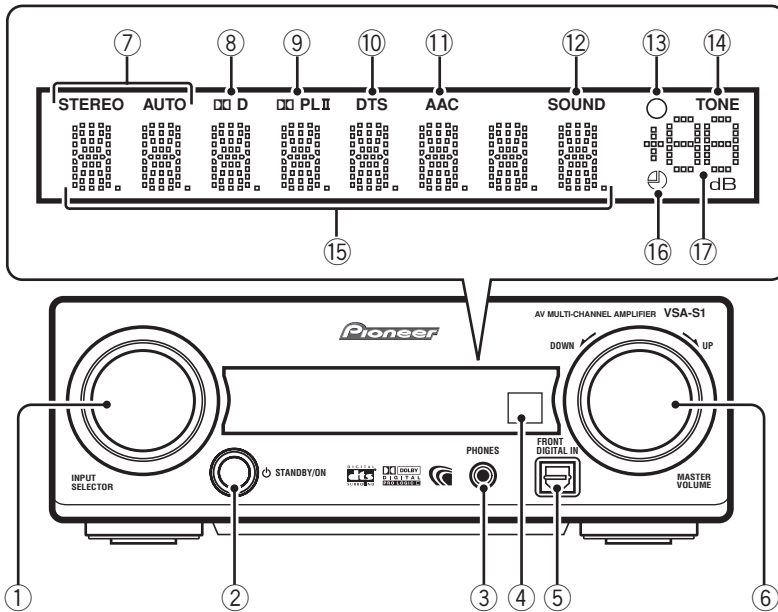
アンプの放熱について

- 本機は下面および上面の孔から空気を取りこみ、放熱用ファンを使って後面の放熱孔から放熱する設計になっております。本機の下には布などを敷かないでください。また後面、上面ともに十分なスペースをとってください。ラック等に設置する場合は放熱のため、後部が開放されているラックを使用するなど、通風を妨げないようにしてください。また、放熱孔がホコリでふさがれてしまうと放熱が十分にされなくなりますのでご注意ください。
- 本機をラックに設置するときは、前面にドアのないラックをおすすめします。ドア付きラックに設置して本機をお使いになるときは、使用中のみドアを開けるなどして通風を妨げないようにしてください(ドアを開けてお使いになるときはぶつかってケガなどしないように十分お気を付けください)。

ラックなどに設置する場合は、上部に20cm以上空間を開けてください。

- 本機は使用中に熱を発生します。本機の上には物をのせないでください。
- 本機は使用中に熱を発生します。インテリア用の布などをかぶせた状態でお使いにならないでください。

- 本機使用中または使用直後は上面が熱くなっていることがありますのでご注意ください。

スピーカーを壁に取り付けるには

スピーカーを壁に取り付けることができます。

- 壁に取り付ける場合は、重量・取付方法によっては落下・転倒などの危険性があります。事故のないように十分注意してください。
- 設置・据付場所は重量に十分耐え得る強度を持つ場所を選んでください。強度などが不明の場合は、専門業者にご相談ください。
- 壁に取り付けるためのネジは付属していません。柱や壁の強度や材質に合わせたものを使用してください。
- 据付け・取り付けの不備、誤使用、改造、天災などによる事故損傷については、弊社は一切責任を負いません。

各部の名称とはたらき

本体前面部

①**INPUT SELECTOR(入力切換つまみ)(14 ページ)**
入力機器を選びます。

②**⏻STANDBY/ON ボタン**
本機の電源を ON/OFF します。

③**PHONES(ヘッドホン)端子(25 ページ)**
ヘッドホンプラグを差し込む端子です。プラグを差し込んでいるときは、スピーカーから音が出ません。

④**リモコン受光部(10 ページ)**

⑤**FRONT DIGITAL IN (フロントデジタル入力)端子(11 ページ)**
光デジタル音声出力端子の付いている機器とデジタル接続します。

⑥**MASTER VOLUME(音量調節つまみ)(14 ページ)**
本機の音量を調節します。

⑦**STEREO インジケーター(21 ページ)**
「ステレオ」モードを選んでいるときに点灯します。
AUTO インジケーター(21 ページ)
「オート」モードを選んでいるときに点灯します。

⑧**DD D インジケーター**
ドルビーデジタル信号を入力しているときに点灯します。

⑨**DD PLII インジケーター**
ドルビープロロジックII 処理されているときに点灯します。

⑩**DTS インジケーター**
DTS 信号を入力しているときに点灯します。

⑪**AAC インジケーター**
MPEG-2 AAC 信号を入力しているときに点灯します。

⑫**SOUND インジケーター(22 ページ)**
「サウンドモード」を選んでいるときに点灯します。

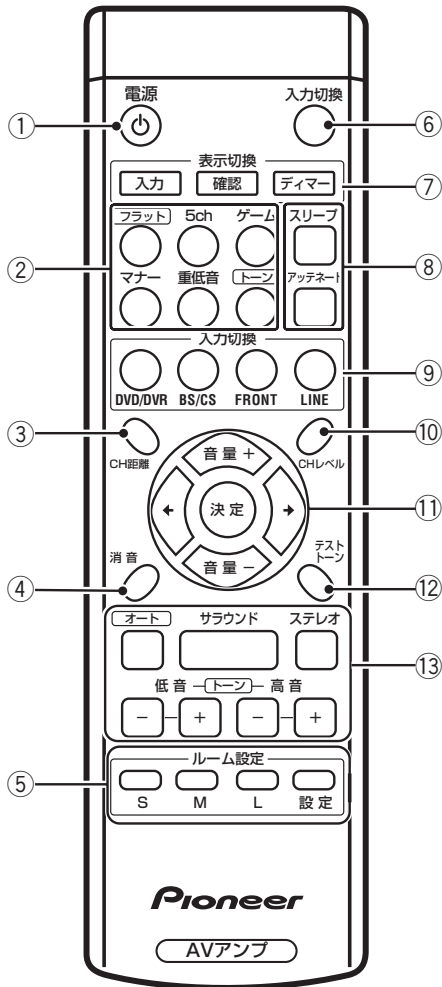
⑬**○ インジケーター**
デジタル信号を入力しているときに点灯します。

⑭**TONE インジケーター(22、23 ページ)**
「トーン」モードを選んでいるときに点灯します。

⑮**キャラクター表示部**

⑯**◴インジケーター(24 ページ)**
スリープタイマーを設定すると点灯します。

⑰**VOLUME(音量レベル)表示部(14 ページ)**
現在の音量レベルを表示します。音量レベルは、電源をOFFにしても保持されます。「－－－dB」は最小レベル、「0dB」は最大レベルを表わします。

リモコン

①**電源⏻ボタン**
本機の電源をON/OFF(スタンバイ状態)にします。

②**フラットボタン(22ページ)**
サウンドモードをOFFにします。

5chボタン(22ページ)
5chステレオモードをONにします。

ゲームボタン(22ページ)
ゲームモードをONにします。

マナーボタン(22ページ)
マナーモードをONにします。

重低音ボタン(22ページ)
重低音モードをONにします。

トーンボタン(22、23ページ)
トーンモードをONにします。

③**CH距離ボタン(19ページ)**
各スピーカーまでの距離の設定に切り換わります。

④**消音ボタン(24ページ)**
音を一時的に消します。もう一度押すと消音機能は解除され元の音量に戻ります。

⑤**ルーム設定ボタン(16ページ)**
ルーム設定モードに切り換わります。各スピーカーの音量(チャンネルレベル)とスピーカーまでの距離を調整します。

⑥**入力切換ボタン(14ページ)**
本機の入力を切り換えます。押すたびに入力が切り換わります。

⑦**表示切換ボタン**
ディスプレイの表示を切り換えます。

入力(23ページ)
選択されている入力と入力されている信号の種類を表示します。
信号の種類は以下のように表示します。
「1ch」:モノラルのデジタル信号
「2ch」:ステレオのデジタル信号
「MULTIch」:デジタル信号のマルチチャンネル信号
「ANALOG」:アナログ信号

確認(23ページ)
選択されている入力に選ばれているリスニングモードとサウンドモードを表示します。

ディマー(24ページ)
表示部の明るさを3段階で調整します。

⑧**スリープボタン(24ページ)**
スリープタイマーを設定します。90分、60分、30分、またはOFFに設定することができます。

アッテネートボタン(24ページ)
音量を下げます。

⑨**入力切換ボタン(14ページ)**
本機の入力を切り換えます。

⑩**CHレベル(25ページ)**
手動(テストトーンを出力しない)でスピーカーを切り換えて、各スピーカーの音量(チャンネルレベル)を調整します。

⑪**🡐　🡒ボタン**
各種設定で項目を選びます。

音量－/＋ボタン(14ページ)
本機の音量を調節します。

決定ボタン
各種設定で項目を決定します。

⑫**テストトーン(18 ページ)**
テストトーンを出力して各スピーカーの音量(チャンネルレベル)を調整します。

⑬**オートボタン(21 ページ)**
入力信号の音声フォーマットに合わせて、ステレオ(2ch再生)モードと5.1chデコードモードを自動で切り換え、ソフトに忠実な再生を行います。

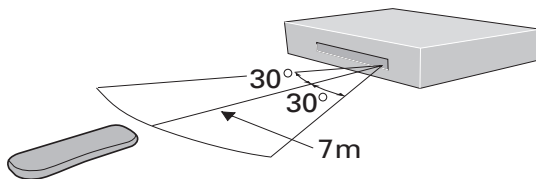
サラウンドボタン(21 ページ)
マルチチャンネル音声で収録されているソフトはそのまま再生します。2ch音声で収録されているソフトはドルビープロロジックII技術によってサラウンド再生します。2 種類のモードから選択することができます。

ステレオボタン(21 ページ)
「ステレオ(2ch 再生)」モードに切り換えます。

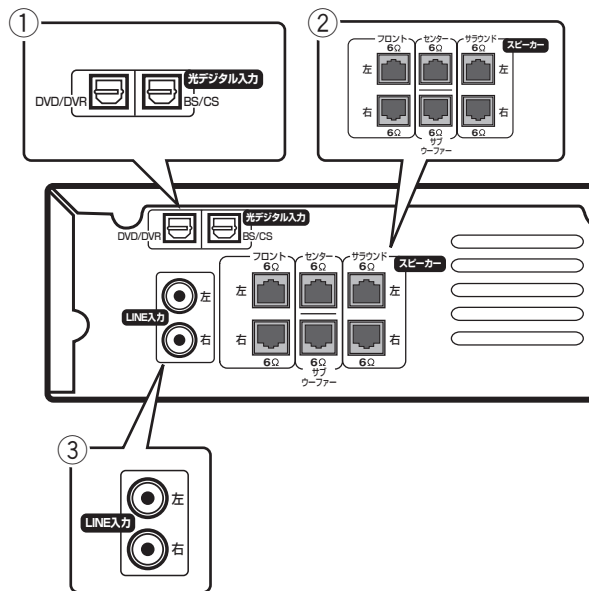
トーン低音－ / ＋ボタン(22、23 ページ)
トーンモードの低音を調整します。

トーン高音－ / ＋ボタン(22、23 ページ)
トーンモードの高音を調整します。

リモコンの操作範囲

本機をリモコンで操作するときは、リモコンを本体前面部のリモコン受光部に向けてください。下記の範囲内で操作することができます。

メモ

- リモコンと本機との間に障害物があったり、リモコン受光部との角度が悪いと操作ができない場合があります。
- リモコン受光部に直射日光や蛍光灯などの強い光が当たると誤動作することがあります。
- 赤外線を発射する機器の近くで本機を使用したり、赤外線を利用したほかのリモコンを使用したりすると、本機が誤動作することがあります。逆にこのリモコンを操作すると、他の機器を誤動作させることもあります。

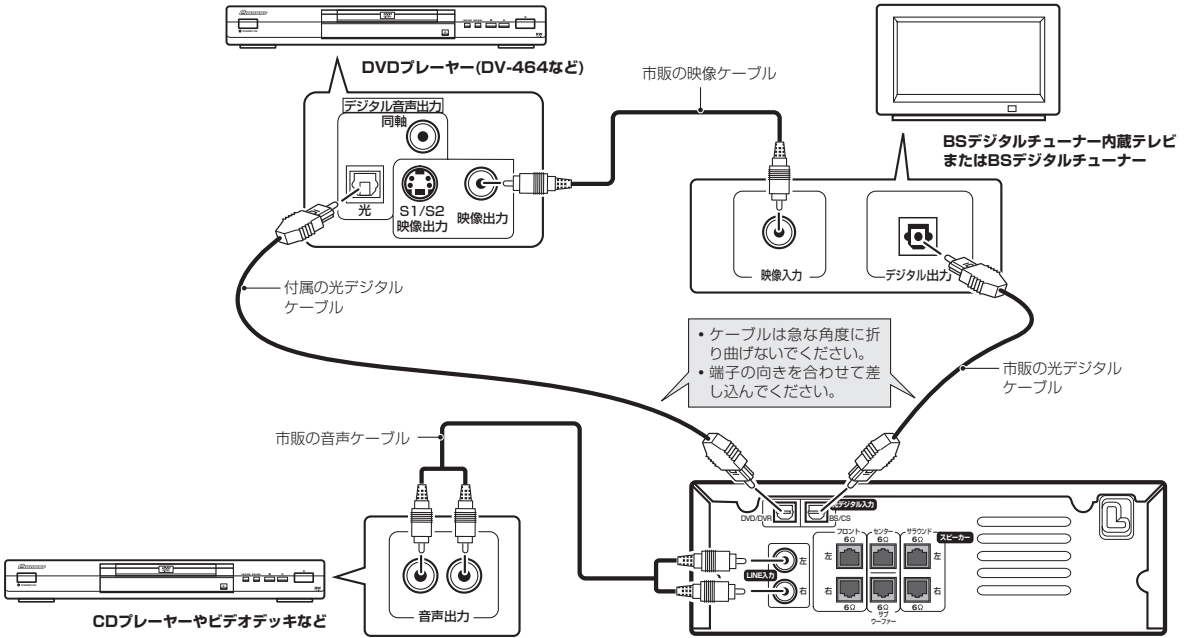
本体後面部

① **デジタル音声入力端子(11 ページ)**
光デジタル音声入力端子
(光 1「DVD/DVR」、光 2「BS/CS」):
光デジタル音声出力端子を持つデジタル機器と接続することができます。

②**スピーカー端子(12 ページ)**
スピーカーと接続します。

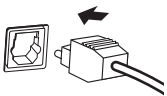
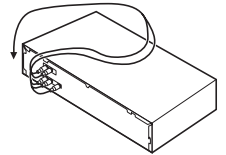
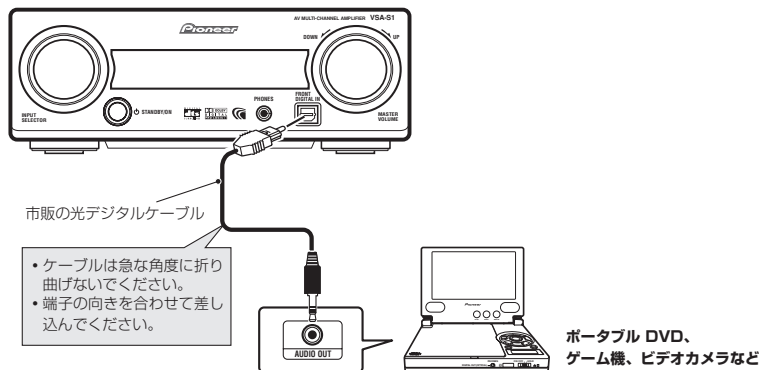
③**LINE 入力端子(11 ページ)**
アナログ音声入力端子
アナログ音声出力端子を持つ機器と接続することができます。

接続

機器の接続を行う場合、あるいは変更を行う場合には必ず電源を切り、電源コードをコンセントから抜いてください。

各機器を接続する

注意

- **接続コードの状態について**
  右図のように、本機の上に接続コードを曲げて放置すると、電源トランスからの磁界の影響により、スピーカーからハムノイズが出る場合があります。接続コードはこのような状態にしないでください。

- **光デジタルケーブルを差し込むときの注意**

接続の際は端子の向きを合わせてしっかり奥まで差し込んでください。誤った向きでむりやり挿入すると、端子が変形し、ケーブルを抜いてもシャッターが閉らなくなることがあります。

本体前面入力端子に接続する

スピーカーを接続する

- 付属のスピーカーをお使いください。付属のスピーカーを本システム以外のアンプに接続しないでください。故障・火災の原因となることがあります。また、本システムのアンプに付属のスピーカー以外のスピーカーを接続しないでください。

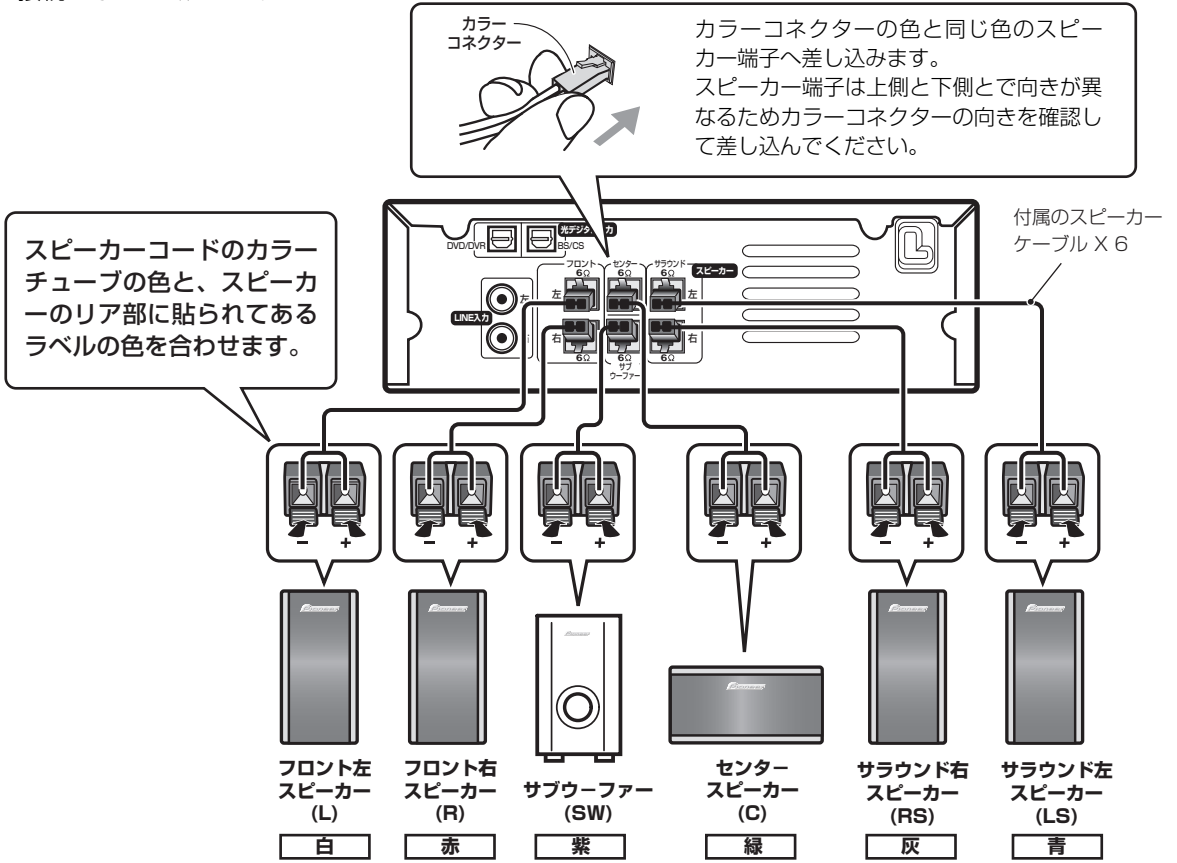
カラー
コネクター

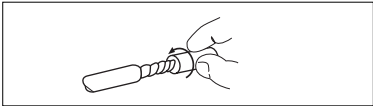
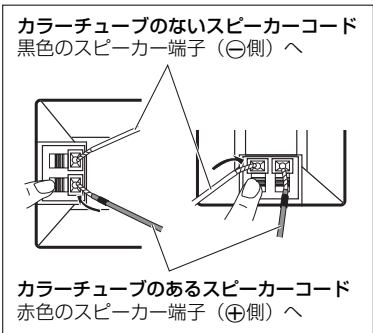
カラーコネクターの色と同じ色のスピーカー端子へ差し込みます。
スピーカー端子は上側と下側とで向きが異なるためカラーコネクターの向きを確認して差し込んでください。

スピーカーコードのカラーチューブの色と、スピーカーのリア部に貼られてあるラベルの色を合わせます。

付属のスピーカーケーブル X 6

DVD/DVR
光デジタル入力
BS/CS
LINE入力
左
右
フロント 6Ω
センター 6Ω
サラウンド 6Ω
スピーカー
サブウーファー 6Ω

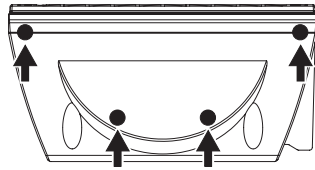
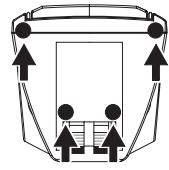
フロント左スピーカー (L)	フロント右スピーカー (R)	サブウーファー (SW)	センタースピーカー (C)	サラウンド右スピーカー (RS)	サラウンド左スピーカー (LS)
白	赤	紫	緑	灰	青

スピーカーコードの接続

① コードの被覆を回しながら引き抜きます。

② スピーカー端子のツメを押しながら、スピーカーコードを差し込みツメを元に戻す。

注意

- 本機は、テレビとの近接使用が可能なスピーカーシステムです。設置のしかたによっては、色ムラが生じる場合があります。その場合は、一度テレビの電源を切り、15 ～30 分後に再びスイッチを入れてください。テレビの自己消磁機能により、画面への影響が改善されます。その後も色ムラが残るような場合には、スピーカーシステムをさらに離してご使用ください。
- 近くに磁石など磁気を発生するものが置かれている場合には、本機との相互作用により、テレビに色ムラを発生する場合がありますので、設置にご注意ください。
- スピーカーコードの芯線をねじるときは、ばら線が束からはみ出さないように注意してねじってください。はみ出した線があると、芯線どうしがふれてしまいアンプに過大な負荷が加わって動作が停止したり、故障することがあります。
- 端子に接続した後コードを軽く引いて、コードの先端が端子へ確実に接続されていることを確かめてください。不完全な接続は、音がとぎれたり、雑音の出る原因となります。

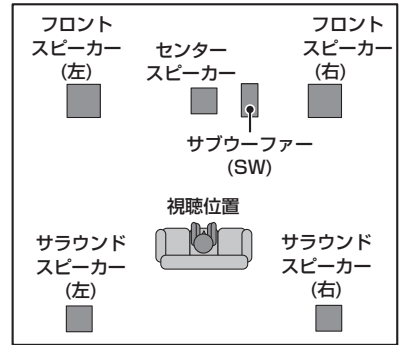
滑り止めパッドの使いかた

滑り止めパッドを紙からはがし、フロント、センター、サラウンドの各スピーカーの底面に４カ所ずつ貼り付けてください。

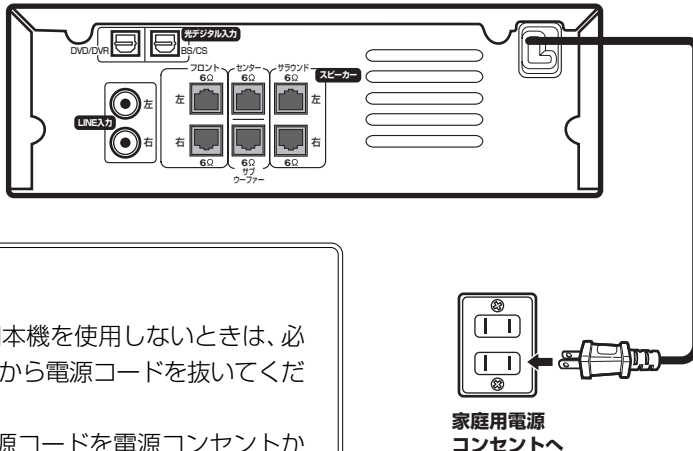
センタースピーカーの底面

フロント・サラウンドスピーカーの底面

メモ

▼ **スピーカーの配置について**

サラウンド効果を最大限に引き出すため、右の図のように各スピーカーを設置してください。

- 左右に置いたスピーカーはテレビから等距離になるように設置してください。
- センタースピーカーはテレビの下側に置き、センターチャンネルの音がテレビと同じ位置に配置されるようにしてください。もしセンタースピーカーをテレビの上に置くときは、テープなどを使用して適切な方法で固定してください。固定しないと地震などの外部の振動により、スピーカーがテレビから落下してケガをしたり、スピーカーを破損する原因となります。
- サラウンドスピーカーは耳の高さからやや上方に設置すると効果的です。
- サラウンドスピーカーを視聴位置（リスニングポジション）から極端に離して設置すると、サラウンド効果が十分に発揮されません。
- フロントスピーカーとサブウーファーは視聴位置から等距離になるように設置してください。

電源コードを接続する

すべての接続が終了してから、壁の電源コンセントを接続してください。

家庭用電源コンセントへ

注意

- 旅行などで長期間本機を使用しないときは、必ず電源コンセントから電源コードを抜いてください。
- 約１週間以上、電源コードを電源コンセントから抜いた状態が続くと、設定が工場出荷時に戻ります。

基本的な使いかた

再生する(基本再生)

1 テレビ、入力機器(DVD プレーヤーなど)の電源を入れる

2 本機の電源を入れる

リモコン

電源

- ⏻ 電源ボタンを押します。また、本体 ⏻ STANDBY/ON ボタンで電源を入れることもできます。

本体

3 入力を選ぶ

リモコン

入力切換

DVD/DVR BS/CS FRONT LINE

入力切換ボタンで選びます。右上の入力切換ボタンでも押すたびに入力が切り換わります。

本体

また、本体の入力切換つまみ(INPUT SELECTOR)を回して選ぶこともできます。

INPUT SELECTOR

4 テレビの入力を切り換える

入力機器からの出力映像がテレビ画面に映し出されるようにテレビの入力を切り換えてください(テレビ放送を見るときは不要です)。

5 入力機器の設定をする

DVD プレーヤーなどでは、デジタル音声出力の設定が必要な場合があります。詳しくは『入力機器の設定を確認する』(次ページ)をご覧ください。

6 入力機器の再生を開始する

各インジケーターが点灯します。

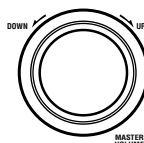
7 音量を調節する

リモコン

本体

- 音量－/＋ボタンで調節します。また、本体の音量調節つまみ（MASTER VOLUME）を回して調節することもできます。
- [－－－](最小)～[0dB](最大)の間で調節します。
- 音が出ないときは、『故障かな？と思ったら』(29 ページ)をご覧ください。

メモ

▼テストトーン、チャンネルレベル、またはルーム設定で各スピーカーの音量やチャンネルレベルを調整したとき、音量の最大値が[0dB]にならないことがあります。

入力機器の設定を確認する

入力機器の以下の項目が正しく設定されていないと「音が出ない」、「音に迫力がない」などの症状が起こることがあります。入力機器または再生するソフトの取扱説明書をご覧になり確認してください。

①入力機器のデジタル音声出力の設定

入力機器側でデジタル音声出力の設定ができるときは、以下の音声信号が出力されるように設定してください。『音声記録方式』(27ページ)も合わせてご覧ください。

- ドルビーデジタル
- DTS
- MPEG-2 AAC(BSデジタル)

②再生するソフトの音声の確認

複数の音声が収録されているソフトや複数の音声で放送されているテレビ番組などでは、必要に応じて聴きたい音声を選んでください。選んだ音声の種類やリスニングモード(20ページ)によって音の出るスピーカーが異なります。

注意

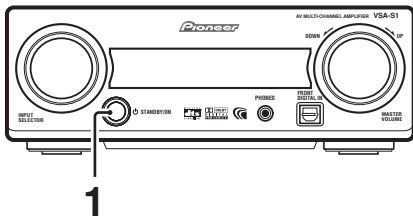
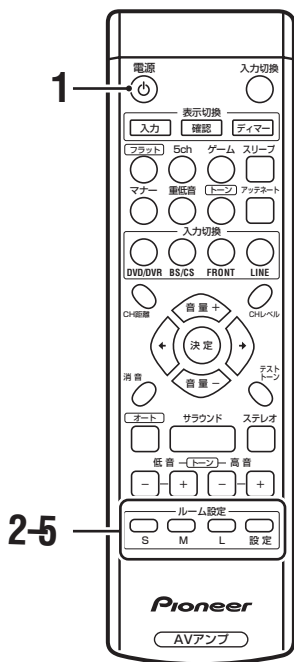
入力機器や再生するソフトによって、2chステレオ(アナログ、PCMなど)以外の音声信号を出力できないことがあります。2chステレオ音声信号を本機に入力してマルチチャンネルサラウンドで楽しむときは、サラウンドモードを「MOVIE」か「MUSIC」などに切り換えてください(20、21ページ)。

メモ

▼ ドルビーデジタル、DTS、MPEG-2 AAC、リニアPCM（32kHz～96kHz）以外のデジタル信号は本機では再生できないことがあります。

基本的な使いかた

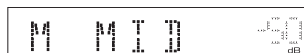
ルーム設定

視聴位置(リスニングポジション)の「近くに置いたスピーカー」と「遠くに置いたスピーカー」とでは、そのスピーカーから聴こえる音のタイミングや大きさにズレが生じるため、適切なサラウンド効果を得ることができません。「ルーム設定」では、お部屋のスピーカー配置に合わせて「部屋の大きさ(ルームサイズ)」と「視聴位置(リスニングポジション)」を選んで、聞こえる音のタイミングや大きさのズレを簡単に改善することができます。

1 本機の電源を入れる

本体の ⏻ STANDBY/ON ボタンを押します。

2 ルーム設定モードにする

- 設定ボタンを押します。
- 工場出荷時はルームサイズ＝ M、リスニングポジション＝MIDに設定されています。

M MID -50 dB

すでにルーム設定が行われているときは、現在の設定が表示されます。

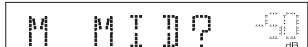
- 設定後マニュアルでチャンネルレベルやスピーカーの距離などを設定したときは表示部に以下のように表示されます。

USER -50 dB

- 何も操作しない状態で 10 秒経過すると通常表示に戻ります。
- ルーム設定ボタン以外のボタンが押されると通常表示に戻ります。

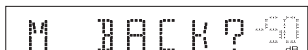
3 ルームサイズを切り換える

(表示中に押す)

- 現在の設定を表示中に「S」、「M」または「L」ボタンを押します。

- 各サイズの目安はSが約8畳、Mが約10畳、Lが約15畳です。

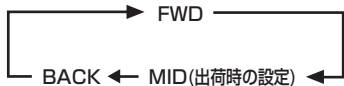
4 リスニングポジションを切り換える

(表示中に押す)

- 現在の設定を表示中に手順3で選んだ「S」、「M」または「L」ボタンを押します。

- 押すたびに以下のように切り換わります。右図もあわせてご覧ください。

5 ルーム設定を終了する

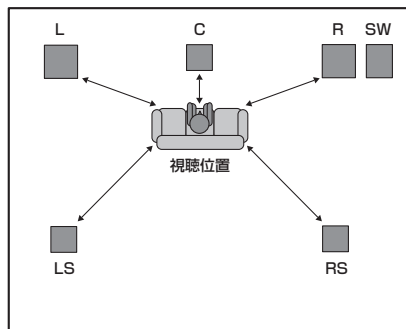
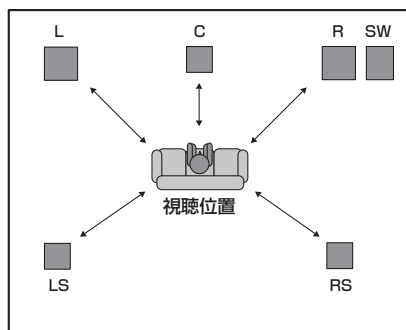
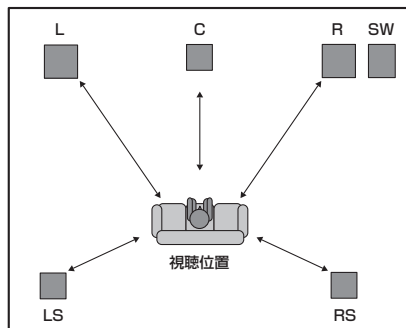
ルーム設定
S M L 設 定

(表示中に押す)

- 設定ボタンを押します。

サイズ＝M、ポジション＝BACKのとき

M BACK -50
dB

リスニングポジションについて

FWD(フロントスピーカーが近いとき)

MID(すべてのスピーカーがほぼ同じ距離のとき)

BACK(フロントスピーカーが遠いとき)

メモ

▼ 途中で設定を中止したときは、それまでの設定は無効になります(例えば、ルームサイズのみを設定したときなど)。

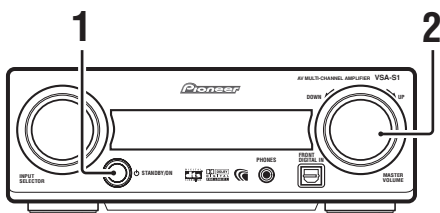
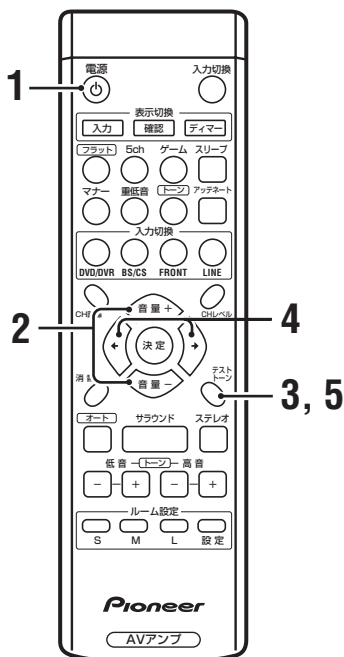
▼ ルーム設定では、以下の項目の設定値を切り換えています。
- 各スピーカーの音量(18ページ)
- 各スピーカーまでの距離(19ページ)

これらの項目を更に細かく設定して、より快適なサラウンド空間をつくり出すこともできます。ただし、これらの設定とルーム設定では、後から行った設定値が優先されます。

サラウンドの設定

お手持ちのシステムやお部屋の環境に合わせて細かな設定をすると、より快適なリスニング環境をつくることができます。ここでの設定はルーム設定にて調整した内容と同じです。ルーム設定よりも細かく設定したいときに以下の設定を行ってください。

各スピーカーの音量を調整する

すべてのスピーカーの音量のバランスを調整します。ただし各スピーカーの音量を調整した後に『ルーム設定』(16 ページ)を変更すると、ルームサイズに応じた音量バランスに調整されます。

1 本機の電源を入れる

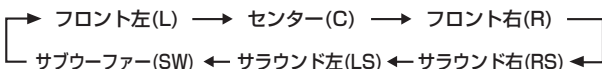
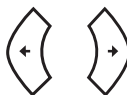
⏻ 電源ボタンを押します。

2 音量を調節する

音量＋/－ボタンでお好みの音量に調節します。

3 テストトーンを出力する

- テストトーンボタンを押します。
- ザーという音が以下の順番で出力されます。

フロント左(L) → センター(C) → フロント右(R) → サラウンド右(RS) → サラウンド左(LS) → サブウーファー(SW) → フロント左(L)

4 テストトーンが出力されているスピーカーの音量を調整する

- ⬅ ➡ ボタンで調整します。
- 各スピーカーからの音が同じ大きさに聴こえるように調節します。音量は± 10dB の範囲で調節することができます。

5 テストトーンを止める

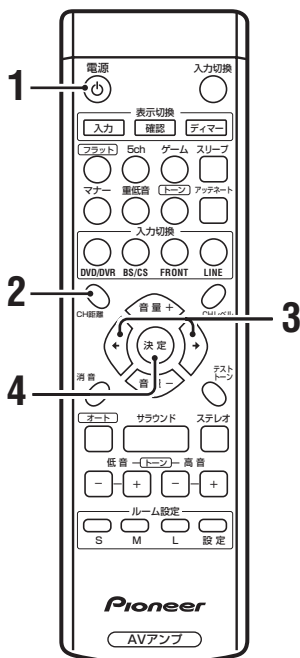
- テストトーンボタンを押します。
- 音量の調節が終了します。

メモ

▼ サブウーファーのテストトーンは、周波数が低いため実際の音量より小さく聞こえます。

▼ サブウーファーの音量は音楽、映画ソフトなどを実際に再生しながら、適切な値に調節してください。

各スピーカーまでの距離を調整する

リスニングポジション(視聴位置)からフロント/センター/サラウンドスピーカーまでの距離を設定します。それぞれのスピーカーまでの距離を入力することによって、その差により生じる音のタイミングのズレが自動的に補正され、リスニングポジションで適切な音場効果を得ることができます。
ただし各スピーカーまでの距離を調整した後に『ルーム設定』(16ページ)を変更すると、ルームサイズに応じた距離に調整されます。

1 本機の電源を入れる

⏻ 電源ボタンを押します。

2 各スピーカーの距離の設定モードを選ぶ

押すたびに項目が切り換わり、表示窓に現在の設定が表示されます。

フロントスピーカーのとき

FRNT : 3.0m -50 dB

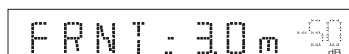
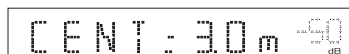
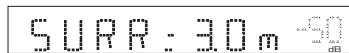
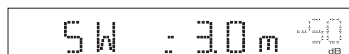
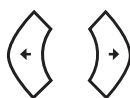
センタースピーカーのとき

CENT : 3.0m -50 dB

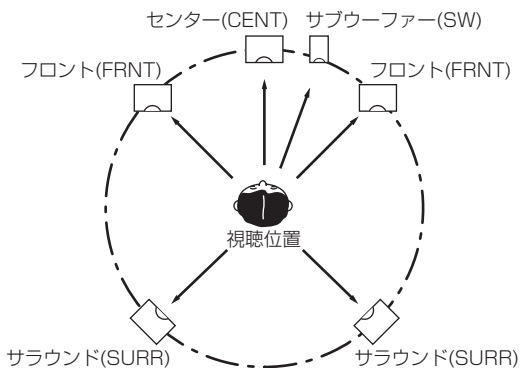
サラウンドスピーカーのとき

SURR : 3.0m -50 dB

サブウーファーのとき

SW : 3.0m -50 dB

3 各スピーカーまでの距離を設定する

- ⬅ ➡ ボタンで調整します。
- 0.3m～9mを0.3m間隔で設定することができます。

4 設定を終了する

決定ボタンを押して、システム設定モードを終了します。

メモ

▼ 10秒間ボタン操作がないときは、設定モードを終了します。

いろいろな使いかた

リスニングモードの種類と効果について

本機では接続しているスピーカーの本数や再生するソフトのジャンルに合わせて最適なサウンドを選ぶことができます。リスニングモードは各入力ごとに設定することができます。

オート（再生するソフトに忠実なリスニングモード）

オート(AUTO)
入力される音声のフォーマットに合わせて、再生するソフトに忠実なリスニングモードを自動的に選びます。2ch 音声で収録された CD などは 2ch のまま、マルチチャンネル音声で収録された映画ソフトなどはマルチチャンネル音声のまま楽しむことができます。

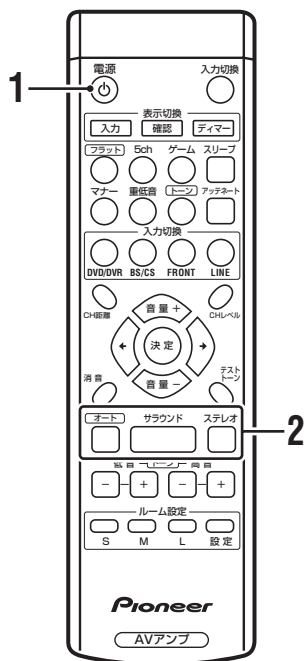
サラウンド（ドルビープロロジックII再生）

2ch音声(ドルビーサラウンド、PCMなど)を入力しているとき、以下の2つから選ぶことができます。ただし、マルチチャンネル音声(5.1chサラウンドなど)を入力しているときは忠実にデコード(再生)して、表示部にデコード名称が表示されます。

- **ドルビープロロジック II ムービー(MOVIE)**
  5.1ch化します。映画ソフトの再生に適したモードです。特にドルビーサラウンドエンコード作品を視聴するとより効果的です。サラウンドスピーカーへのセリフなどの漏れ込み(クロストーク)を聞こえにくくする処理などもあり、ドルビーデジタル 5.1ch サラウンドに迫るセパレーションや移動感などを得ることができます。
- **ドルビープロロジック II ミュージック(MUSIC)**
  5.1ch化します。音楽ソフトの再生に適したモードで、通常のステレオ録音されたCDなどを再生するときに効果的です。サラウンドスピーカーは定位よりも包囲感を重視しています。

ステレオ（ステレオ再生）

- **ステレオ(STEREO)**
  あらゆる音声をステレオ再生(フロント２本のスピーカーとサブウーファーによる再生)します。

リスニングモードを選ぶ

1 本機の電源を入れる

⏻ 電源ボタンを押します。

2 リスニングモードを選ぶ

選んだリスニングモードのインジケーターが点灯します。

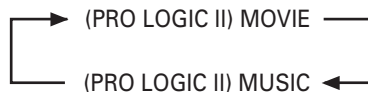
「オート」を選ぶとき

- オートボタンを押します。

AUTO -50 dB

「サラウンド」を選ぶとき

サラウンド

- サラウンドボタンを押します。
- CD などの 2ch 信号のときは、押すたびに以下のように切り換わります。

※ 再生するソフトがマルチチャンネル音声のときは、収録されている音声(Dolby Digital/DTS/MPEG AAC)を忠実にデコード(再生)します。

「ステレオ」を選ぶとき

ステレオ

- ステレオボタンを押します。

メモ

▼ 工場出荷時は「オート」に設定されています。ヘッドホンを差したときは「ステレオ」に切り換わります。
▼「各入力」それぞれに独立してリスニングモードをメモリーすることができます。
▼ ヘッドホンプラグを差しているときは、「ステレオ」以外を選択することはできません。
▼ 96kHz/88.2kHzリニアPCM音声を再生しているときは「ステレオ」以外を選ぶことができません。「ステレオ」以外を選んでいるときに96kHz/88.2kHzリニアPCM音声が入力されると、自動的に「ステレオ」に切り換わります。

サウンドモードの種類と効果について

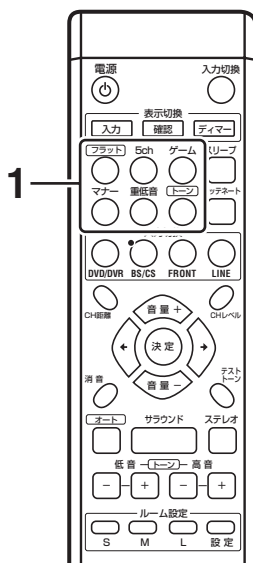
本機では、映画や音楽ソフトなどのあらゆる音声に対して、さまざまな音質を楽しむことができます。サウンドモードは各入力ごとに設定することができます。

サウンドモード(音質効果)

- **フラット(FLAT)**
  サウンドモードを OFF にして、周波数特性をフラットにします。
- **ゲーム(GAME)**
  ゲームのスピード感や躍動感をよりいっそう高めます。シューティングゲームやレーシングゲームなどの右へ左へ駆け巡るような流れのあるシーンの多いゲームに効果的です。
- **5ch(5ch STEREO)**
  標準のステレオ(2ch)音声を加工することなく、5ch にて再生します。部屋のどの場所にいてもステレオ感を楽しむことができます。
- **重低音(S. BASS)**
  低音のレベルを上げて迫力ある再生にします。
- **マナー(MANNER)**
  キンキンする高音や、ドンドン響く低音を和らげて再生します。高音が鋭くて耳につくときや、低音が大きすぎて不快なときなどに効果的です。
- **トーン(TONE)**
  「高音 / 低音を調整する」で設定された音質にします。

メモ

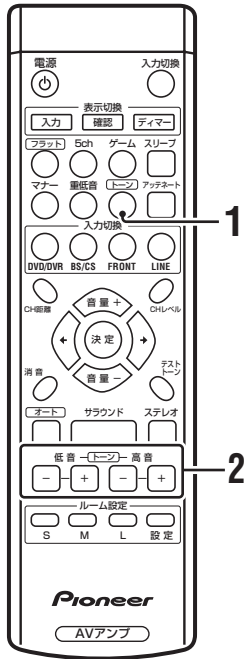
▼「5ch」を選択しているときに、ドルビーデジタルや DTS、MPEG-2 AAC 信号、96 kHz PCM 信号が入力されるとサウンドモードが自動的に「フラット」に切り換わります。

サウンドモードを選ぶ

1 サウンドモードを選ぶ

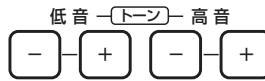
- 設定したいサウンドモードのボタンを押す。
- SOUND インジケーターが点灯します。

メモ

▼ 工場出荷時は「フラット」に設定されています。

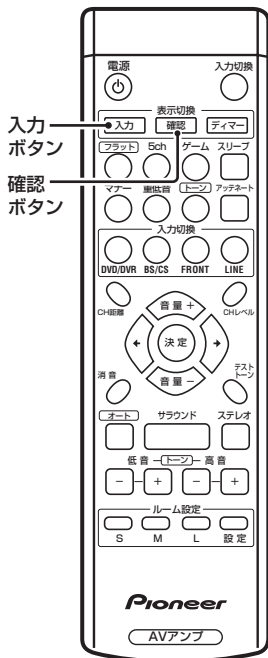
高音／低音を調整する（トーンコントロール）

1 トーンコントロールモードを選ぶ

- トーンボタンを押す。
- SOUNDとTONEインジケーターが点灯します。

2 高音、低音を調整する

- 高音を調整するときは高音＋／－ボタンを押す。
- 低音を調整するときは低音＋／－ボタンを押す。
- 高音、低音それぞれ± 10dB の範囲内、2dB ステップで調整できます。

メモ

▼ トーン調整中に５秒以上、何も操作がない場合は通常表示に戻ります。

入力信号やリスニングモード、サウンドモードを確認する

入力信号を確認する

1 入力信号を確認する

入力

- 入力ボタンを押します。
- 押すたびに現在の入力表示と入力信号の種類の表示が切り換わります。

メモ

▼ LINE 入力を選択しているときは、入力信号の種類の表示で「ANALOG」以外が表示されることはありません。

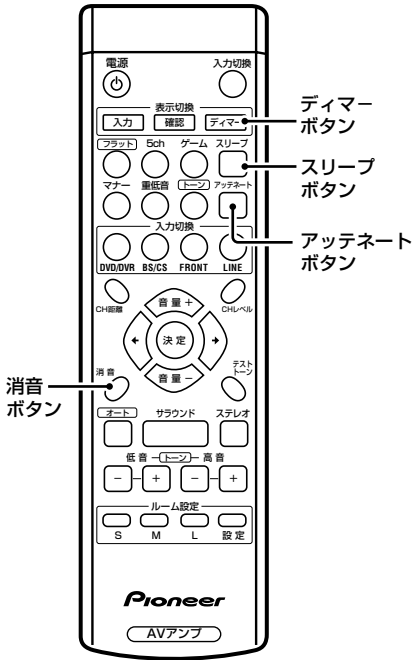
リスニングモードやサウンドモードを確認する

選択されている入力に設定されたリスニングモードとサウンドモードを表示、確認することができます。

1 リスニングモードを確認する

確認

- 確認ボタンを押します。
- １回押すとリスニングモードをもう一度押すとサウンドモードを表示します。
- ５秒間、何も操作がない場合は元の表示に戻ります。

その他の機能

一時的に音を消す(ミュート)

1 音を消す(ミュートする)

- 消音ボタンを押します。
- 一時的に音が消えます。再度押すと元の音量に戻ります。音量－／＋ボタンでもミュートを解除することができます。

ワンタッチで音量を下げる

1 音量をアッテネートする

- アッテネートボタンを押す。
- 元の音量に戻すには音量+ボタンを押してください。

表示部の明るさを調整する(ディマー)

1 表示部の明るさを調整する

- ディマーボタンを押します。
- 押すたびに表示部の明るさが「明るい」「少し暗い」「暗い」の３段階で切り換わります。

スリープタイマーを設定する(スリープ)

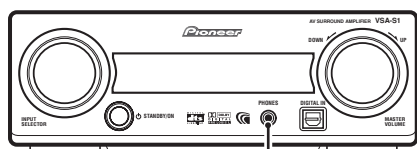
時間を設定して自動的に電源を切ることができます。

1 タイマーを設定する

- スリープボタンを押します。
- スリープインジケーターが点灯します。

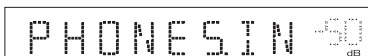
- 押すたびに時間が「30分後」「60分後」「90分後」「OFF」の４段階で切り換わります。

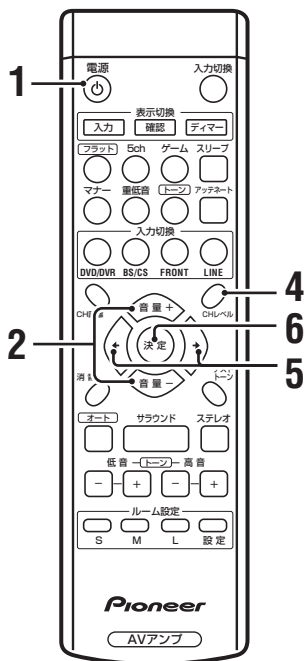
メモ

▼ スリープタイマーを設定した後にスリープボタンを1回押すと、現在の残り時間が表示されます。表示中に再度スリープボタンを押すと再設定されます。

ヘッドホンを使う

1 ヘッドホンプラグをヘッドホン端子に差し込む

- 差し込むとスピーカーから音が出なくなります。
- 「ステレオ」以外のサラウンドモードを選ぶことはできません。
- ヘッドホンを挿入しているときに、テストトーン、チャンネルレベル、サラウンドモード、サウンドモードボタンを押すと以下の表示が点滅し、操作することはできません。

PHONES IN -50 dB

特定のスピーカーの音量を調節する(チャンネルレベル)

音楽、映画ソフトなどを実際に再生しながらスピーカの音量を調節することができます。以下の手順で操作します。

1 本機の電源を入れる

⏻AV アンプボタンを押します。

2 音量を調節する

音量+/−ボタンでお好みの音量に調節します。

3 入力機器の再生をする

4 調節するスピーカーを切り換える

- CHレベルボタンを押します。
- 押すたびにスピーカーが切り換わります。

5 スピーカーの音量を調節する

- ⬅ ➡ボタンで調整します。
- 1dB単位で−10〜+10dBの間で調節することができます。

6 設定を終了する

決定ボタンを押して、システム設定モードを終了します。

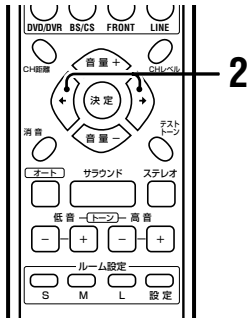
メモ

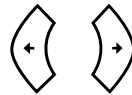
▼ CH レベルボタンを押してスピーカーの音量調節モードに入ったとき、10 秒間何も操作が行われないとスピーカーの音量調節モードは自動的に終了します。
▼ チャンネルレベルを調整した後に、ルーム設定(16 ページ)やテストトーンによる設定(18 ページ)を行うと、その設定が優先されます。

デュアルモノの設定

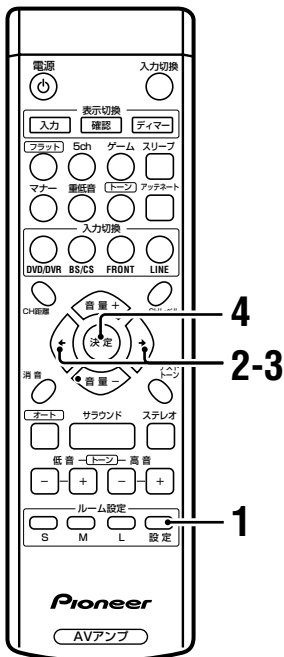
モノラルの音声チャンネルを２つ持つデジタル信号のことを1+1デュアルモノラル信号といいます。ここではデュアルモノラル信号が入力されたときにどちらの音声をどのスピーカーから出力するかを設定します。この設定は、以下のようなMPEG-2 AACやドルビーデジタルの1+1デュアルモノラルフォーマットのソースにのみ有効です。

- **BSデジタル放送のモノラルの二か国語放送や音声多重放送など**
  ステレオの二か国語放送などはデュアルモノラルとは異なるフォーマットになります。
- **2か国語放送などをDVDレコーダーのデュアルモノラルモードで録画したもの**
  録画モードの名称は機器によって異なります。詳しくはDVDレコーダーの取扱説明書をご覧ください。

ch1 ： チャンネル１の音声のみを再生するとき選びます。
ch2 ： チャンネル２の音声のみを再生するとき選びます。
ch1/ch2 ： チャンネル1/チャンネル2の音声をそれぞれ左/右のフロントスピーカーから分けて再生するとき選びます。

1 デュアルモノラル信号を入力する

2 再生する音声チャンネルを選ぶ

押すたびに以下のように切り換わります。

すべての設定を工場出荷時に戻す

本機のすべての設定を工場出荷時に戻します。この操作を行う前に、必要に応じて現在の設定を覚え書きして残しておくことをおすすめします。工場出荷時の設定については『工場出荷時の設定一覧』(28ページ)をご覧ください。

1 ルーム設定ボタンを押す

- 何も操作しない状態で10秒経過すると通常動作に戻ります。

2 ⬅ボタンを押す

表示部に以下のように表示されます。

3 「RESET?」表示中に➡ボタンを押す

表示部に以下のように表示されます。

4 「OK?」表示中に決定ボタンを押す

表示部に以下のように表示され、設定が工場出荷時に戻ります。

その他

用語解説

DVD ソフトのパッケージのほとんどに以下のような表示がされています。
1 枚のディスクに複数の音声が収録されていることが多く、どの音声を聴くか選ぶことができます。

例）

1. 英　語 (5.1ch サラウンド)
2. 日本語 (ドルビーサラウンド)
3. 英　語 (DTS 5.1ch サラウンド)

収録音声数　　記録方式　　音声記録方式

音声記録方式

ドルビーデジタル *1

DVDの標準音声フォーマットの1つとして採用された音声圧縮記録方式です。モノラル信号(1ch)やドルビーサラウンド信号(2ch)などから5.1chサラウンド信号(現在の映画やDVDの記録方式の支流)まで網羅する柔軟性の高い方式です。5.1chソフトの各チャンネルには、独立した音声とLFEと呼ばれる低音がデジタルで記録されています。臨場感あふれるドルビーデジタルサラウンド再生を楽しむためにはDVDプレーヤーと本機をデジタル接続することが必要です。

DTS *2

デジタルシアターシステム (Digital Theater System)の略です。5.1ch サラウンドが主流で、音声の低圧縮率とデータの高転送レートがもたらす豊富な情報量により、高音質マルチチャンネルサラウンド再生を実現します。
DTS 信号を再生するには DVD プレーヤーと本機をデジタル接続することが必要です。

PCM

Pulse Code Modulation の略で、圧縮していないデジタル音声です。CD の音声はほとんどこの方式で、DVD の標準音声フォーマットの１つでもあります。CDのサンプリング周波数が 44kHz であるのに対し、DVD のサンプリング周波数は 48kHz や 96kHz と高いので、DVD の方がより高音質の音声を楽しむことができます。通常は2chで収録されています。

MPEG-2 AAC(Advanced Audio Coding)

MPEG-2 オーディオの標準方式の１つで、BS デジタル放送で採用されている音声符号化規格です。低ビットレートでかつ高音質を確保できる点が特長で、番組内容によりマルチチャンネル設定が可能なフォーマットです。以下が米国パテントナンバーです。

08/937,950	5 297 236	5,481,614	5,490,170
5848391	4,914,701	5,592,584	5,264,846
5,291,557	5,235,671	5,781,888	5,268,685
5,451,954	07/640,550	08/039,478	5,375,189
5 400 433	5,579,430	08/211,547	5,581,654
5,222,189	08/678,666	5,703,999	05-183,988
5,357,594	98/03037	08/557,046	5,548,574
5 752 225	97/02875	08/894,844	08/506,729
5,394,473	97/02874	5,299,238	08/576,495
5,583,962	98/03036	5,299,239	5,717,821
5,274,740	5,227,788	5,299,240	08/392,756
5,633,981	5,285,498	5,197,087	

再生方式

マルチチャンネルサラウンド再生

３本以上のスピーカーでサラウンド再生することです。3ch以上で記録されているソフトについてはソフトに忠実に再生します。なかでも5.1chサラウンド信号の再生は、すべてのスピーカーからそれぞれ異なる音声が出力されるので、ドルビープロロジックII再生に比べ、より立体感のある音場で迫力のある臨場感を楽しむことができます。

ドルビープロロジック II 再生

ドルビープロロジックは、2ch 信号をサラウンド再生するための代表的なマトリックスデコード技術です。これをさらに改良したドルビープロロジックIIは(ステアリングロジック回路により)2ch信号を5.1chに拡張することができます。CDのような通常のステレオ音楽素材に対してもより優れた立体音場効果、包囲感、より明確な定位をもたらし、ドルビーサラウンドエンコードされた素材はディスクリート5.1chに匹敵する移動感を実現します。

プロロジックとプロロジック II の違い

	プロロジック	プロロジック II
効果的なソース	ドルビーサラウンドエンコード処理されたステレオ音声	すべてのステレオ音声
デコードチャンネル数	4.1ch (サラウンドモノラル)	5.1ch (サラウンドステレオ)
周波数特性	サラウンド 7kHz 帯域制限	全チャンネル フルバンド

デコード

ドルビーデジタル、DTS、MPEG-2 AAC などの圧縮されたデジタル信号を解凍して再生することです(2ch 信号をドルビープロロジックII再生することをマトリックスデコードと呼ぶことがあります)。

*1 *ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。Dolby、ドルビー、Pro Logic 及びダブル D 記号及び AAC ロゴは、ドルビーラボラトリーズの商標です。*

*2 *「DTS」及び「DTS Digital Surround」は Digital Theater Systems,Inc. の商標です。*
Digital Theater Systems,Inc. からの実施権に基づき製造されています。

工場出荷時の設定一覧

設定項目	初期値	参照ページ
入力	DVD/DVR	14
音量	−74 dB	14
リスニングモード	オート (すべての入力)	20
リスニングモード (ヘッドホンを差しているとき)	ステレオ (すべての入力)	20
サウンドモード	フラット(FLAT) (すべての入力)	22
各スピーカーまでの距離	ルーム設定MID	19
CH レベル	ルーム設定M	18
表示部の明るさ調整(ディマー)	明るい	24
デュアルモノの設定	ch1	26

保証とアフターサービス

保証書(別添)

保証書は、必ず「販売店名・購入日」などの記入を確かめて販売店から受け取っていただき、内容をよくお読みのうえ、大切に保管してください。

保証期間はご購入日から 1 年間です。

補修用性能部品の最低保有期間

当社は、この製品の補修用性能部品を製造打ち切り後最低８年間保有しています。性能部品とはその製品の機能を維持するために必要な部品です。

修理に関するご質問、ご相談

お買上げの販売店へご依頼ください。ご転居されたり、ご贈答品などで販売店に修理の依頼ができない場合は修理受付センターにご相談ください。

修理を依頼されるとき

「故障かな？と思ったら」(29ページ)にしたがって調べていただき、なお異常のあるときは、必ず電源プラグを抜いてから、お買い上げの販売店へご依頼ください。

連絡していただきたい内容

- 商品名 : 5.1ch サラウンド・システム
- 型番 : HTP-S1
- お買い上げ日
- 故障または異常の内容(できるだけ詳しく)
- ご住所
- お名前
- 電話番号
- 訪問ご希望日
- ご自宅までの道順と目標(建物や公園など)

保証期間中は…
修理に際しては、保証書をご提示ください。保証書に記載されている当社の保証規定に基づき修理いたします。
保証期間が過ぎているときは…
修理すれば使用できる製品については、ご希望により有料で修理いたします。

仕様

オーディオ部

実用最大出力(JEITA、1kHz、10%、6Ω)
フロント .... 35 W/CH
センター .... 35 W
サラウンド .... 35 W/CH
サブウーファー .... 35 W
入力端子(感度 / インピーダンス)
.... 200 mV/47 kΩ

電源部・その他

電源 .... AC 100V、50/60 Hz
消費電力 .... 135 W
スタンバイ時消費電力 .... 0.7 W
外形寸法 .... 210(幅)× 77(高さ)× 321(奥行) mm
質量 .... 4.5 kg

スピーカーシステム部（S-S1）

フロント/サラウンドスピーカー
型式 .... 密閉式ブックシェルフ型
防磁設計＊（JEITA）
使用スピーカー
フルレンジ .... 10 × 6 cm（コーン型）
公称インピーダンス .... 6 Ω
再生周波数帯域 .... 100 ～ 20,000 Hz
最大入力 .... 35 W（JEITA）
外形寸法 .... 82 X 162 X 83 mm
（幅）X（高さ） X（奥行）
質量 .... 0.7 kg

センタースピーカー
型式 .... 密閉式ブックシェルフ型
防磁設計＊（JEITA）
使用スピーカー
フルレンジ .... 10 × 6 cm（コーン型）
公称インピーダンス .... 6 Ω
再生周波数帯域 .... 100 ～ 20,000 Hz
最大入力 .... 35 W（JEITA）
外形寸法 .... 162 X 82 X 83 mm
（幅）X（高さ） X（奥行）
質量 .... 0.7 kg

サブウーファー
型式 .... バスレフ式フロア型
防磁設計＊（JEITA）
使用スピーカー
ウーファー .... 13 cm（コーン型）
公称インピーダンス .... 6 Ω
再生周波数帯域 .... 35 ～ 3000 Hz
最大入力 .... 35 W（JEITA）
外形寸法 .... 150 X 258 X 329.5 mm
（幅）X（高さ） X（奥行）
質量 .... 3.5 kg

＊「防磁設計（JEITA）」とは、（社）日本電子機械工業会(JEITA)の技術基準に適合したスピーカーシステムです。

付属品

リモコン 1
単3形乾電池(R6P) 2
光デジタルケーブル 1
取扱説明書(本書) 1
安全上のご注意 1
保証書 1
スピーカーコード 6
滑り止めパッド 20

※ *仕様および外観は改良のため予告なく変更することがあります。*

故障かな？と思ったら

思った通りに動かないと思ったときは以下を確認してみてください。案外簡単なミスや勘違いをしていることもあります。また、本機以外に原因がある場合も考えられますので、ご使用中の他の機器や、同時に使用している電気機具も合わせてご確認ください。それでも正常に動作しない場合はお買い上げの販売店またはお近くのご相談窓口に修理を依頼してください。

「音が出ない」ときは、まず以下の①②を確認してください!

① **テストトーンを出力する(18 ページ)**
接続したすべてのスピーカーからテストトーン(ザーという音)が出力されているか確認してください。テストトーンが出力されないスピーカーがあるときは、接続を見直してください。

② **入力信号とリスニングモードを確認する(23 ページ)**
入力ボタンを押して「入力している圧縮音声信号」を確認し、確認ボタンを押して「全てのスピーカーから音が出るリスニングモードが選択されているか」を確認してください。思った通りに音が出ていないときは、以下のページをご覧ください。
『入力機器の設定を確認する』(15 ページ)
『リスニングモードの種類と効果について』(20 ページ)

上記 ①②を確認しても音が出ないときは、以下から30ページをご覧ください!

電源が入らないまたは電源が自動的に切れる

症状	原因	対策
自動的に電源が切れる。	• 本機内部の温度が許容値を超えた。 • 放熱ファンの故障です。 • 本機の故障です。	• 風通しを良くしてください。 • 修理を依頼してください(32 ページ)。 • 再び電源をONにしても電源が入らないときは、すぐに本機の使用を中止して電源コードを抜き、修理を依頼してください(32ページ)。この症状が起きた後は電源のON/OFFを繰り返さないでください。
	• 音量が大きすぎる。	• 音量を小さくしてから電源を入れ直してください。
	• スピーカーコードがショート(接触)している。	• スピーカーコードの芯線を再度しっかりねじり直して、スピーカー端子からはみ出ないように接続してください。

音が出なかったり、ノイズが出るとき

症状	原因	対策
音が出ない。	• 入力を再生機器に合わせていない。	• 入力切換つまみ(INPUT SELECTOR)で入力を再生機器に合わせてください。
	• 音声が一時的に消音(ミュート)されている。	• リモコンの消音ボタンを押してください。
	• 音量が小さくなっている。	• 音量つまみ(MASTER VOLUME)で音量を調節してください。
	• 接続したコード/ケーブルが端子から外れているまたは接続が間違っている。	• 接続を確認してください。
	• 接続したコード/ケーブルや端子のピンプラグが汚れている。	• 汚れを拭き取ってください。
デジタル接続している機器から音が出ない。またはノイズが出る。	• DVDプレーヤーのデジタル出力の設定がオフに設定されている。	• DVD プレーヤーのデジタル出力の設定をオンに設定してください。
	• CD-ROMなどのデータ信号を入力している。	• 本機はデータ信号に対応していません。
フロント左 / 右スピーカー(チャンネル)から音が出ない。	• フロント左 / 右のスピーカーの音量(チャンネルレベル)が左/右いずれかに偏っている。	• フロント左/右のスピーカーの音量(チャンネルレベル)を調整してください(25 ページ)。

その他

症状	原因	対策
サラウンドまたはセンタースピーカーから音が出ない。	• サラウンドまたはセンタースピーカーの出力レベルが下がっている。 • サラウンドまたはセンタースピーカーの接続が外れている。または、接続を間違えている。 • 2ch 出力のサラウンドモード(「ステレオ」など)を選んでいる。 • 再生しているソフトやテレビ放送の音声が 2ch 分しか入っていない。	• スピーカーのレベルを上げてください(25 ページ)。 • スピーカーを正しく接続してください。 • マルチチャンネルのサラウンドモード(「MOVIE」など)を選んでください。 • 入力信号の種類に関わらず、常にマルチチャンネル音声を聴きたいときは、マルチチャンネルのリスニングモード(「サラウンド」など)を選んでください。
サブウーファーから音が出ない。	• サブウーファーの出力レベルが下がっている。 • 接続が外れている。 •「サウンドモード」の「マナー」を選んでいる。	• サブウーファーの出力レベルを上げる(25 ページ)。 • サブウーファーを正しく接続してください。 •「マナー」を解除してください。
ドルビーデジタルやDTS 音声などで収録されているソフトを再生しても音が出ない。またはノイズが出る。	• アナログ音声が入力されている(DD / DTS インジケーター消灯)。 • DVD プレーヤーから DTS 音声が出力されていない。または DTS 出力が「オフ」に設定されている。 • デジタル音声の出力レベルが低い(出力レベル調整機能が付いている CD プレーヤーなどのとき)。	• 再生機器と正しくデジタル音声接続してください。 • DVD プレーヤーの取扱説明書をご覧になり、DTS 出力を「オン」に設定してください。 • 再生機器のデジタル音声の出力レベルを上げてください。
DTS 対応の CD プレーヤーでサーチするとノイズが出る。	• サーチ中に含まれるデジタル情報を読み取ってしまう。	• これは故障ではありません。サーチ中は本機の音量を小さくして、スピーカーから出る音を抑えてください。
音が歪む	• 音量が大きすぎる。	• 本機の音量を小さくしてください。
96kHz/24bit の DVD ソフトを再生すると音が大きい。	• DVDソフトに収録されている音量レベルが大きい。	• 本機の音量を小さくしてください。
映像が乱れる。	• 本機と干渉している。	• 映像が乱れているときはテレビから本機を離してください。
カセットデッキにノイズが入る	• 本機と干渉している。	• 本機またはカセットデッキの場所を変えてください。
テストトーンが出ないスピーカーがある。	• 接続が外れている。	• 正しく接続してください。

インジケーターが点灯しないまたは違うインジケーターが点灯するとき

症状	原因	対策
ドルビーデジタルまたはDTSなどのDVDソフトを再生しているときにデコードのインジケーターが点灯しない。または違うインジケーターが点灯する。	• 再生機器が停止または一時停止している。 • 再生機器の音声出力が間違って設定されている。 • 再生しているソフトの音声出力が間違って設定されている。 • ドルビーデジタルまたはDTSで収録されていない部分を再生している(メニュー画面など)。	• 再生機器の再生を開始する。 • 再生機器の音声出力を正しく設定する。 • 再生している DVD ソフトの音声出力を正しく設定する。 • ドルビーデジタルまたはDTSで収録されている音声を再生しているときのみインジケーターが点灯します。
BS デジタル放送をデジタル音声で聴いているときに AAC インジケーターが点灯しない。	• BSデジタルチューナー(またはBSデジタルチューナー内蔵テレビ)の音声出力を PCM に設定している。	• BS デジタルチューナーの取扱説明書をご覧になり、MPEG(AAC)音声が出力されるように設定する。

その他

症状	原因	対策
リモコンが操作できない。	• リモコンの電池が消耗している。 • 本体との距離が離れ過ぎている。リモコンを向けている角度が範囲外である。 • リモコンとリモコン受光部の間に信号を遮る障害物がある。 • 蛍光灯などの強い光がリモコン受光部に当たっている。	• 電池を交換する(6ページ)。 • 本体リモコン受光部から7m以内、左右30°の範囲で操作してください(10ページ)。 • 障害物を取り除いてください。または、操作する場所を変えてください。 • リモコン受光部に光が直接当たらないようにしてください。
表示が暗いまたは明る過ぎる。	• 表示部の明るさの調整が適当でない。	• 表示部の明るさ(ディマー)を調整してください(24ページ)。
設定がすべて工場出荷時に戻ってしまった。	• 約1週間以上電源コードを抜いたままにしていた。	• 約1週間以上電源コードを抜いた状態にしておくと、設定が工場出荷時に戻ります。再度設定してください。
リモコンのCHレベルボタンを押しても選べないスピーカーがある。	• 2ch出力のサラウンドモード(「ステレオ」など)を選んでいる。	• マルチチャンネルのサラウンドモード(「MOVIE」など)を選んでください(20～21ページ)。

目的別索引

「目的(本機でやりたいこと)」から詳細が載っているページを探してください。

目的		対応している項目 → ページ
再生	2つのフロントスピーカーから音を出したい(ステレオ再生)。	再生する(基本再生)→ 14ページ リスニングモードの種類と効果について→ 20ページ
サラウンドに関する設定(システム設定)	3つ以上のスピーカーから音を出したい(マルチチャンネルサラウンド再生)。	再生する(基本再生)→ 14ページ リスニングモードの種類と効果について→ 20ページ
音量調節	視聴位置(リスニングポジション)からスピーカーまでの距離を設定したい。	各スピーカーまでの距離を調整する→ 19ページ
	一時的に音を消したい。	一時的に音を消す(ミュート)→ 24ページ
	スピーカの音量を個別に調節したい。	特定のスピーカーの音量を調節する(チャンネルレベル)→ 25ページ
音質	再生するソフトのジャンルに合わせてサウンドを選びたい。	リスニングモードの種類と効果について→ 20ページ サウンドモードの種類と効果について→ 22ページ
	小さな音で視聴しているときの聴き取りにくい音(セリフなど)を聴きとりやすくしたい。	サウンドモードの種類と効果について→ 22ページ
	高音や低音を和らげたい。	リスニングモードの種類と効果について→ 20ページ サウンドモードの種類と効果について→ 22ページ
	低音を大きくしたい。	リスニングモードの種類と効果について→ 20ページ サウンドモードの種類と効果について→ 22ページ
ユーザー設定	表示部の明るさを調整したい。	表示部の明るさを調整する→ 24ページ

お手入れについて

通常は柔らかい布で空拭きしてください。汚れがひどい場合は水で5～6倍に薄めた中性洗剤に柔らかい布を浸してよく絞った後、汚れを拭き取り、その後乾いた布で拭いてください。アルコール、シンナー、ベンジン、殺虫剤などが付着すると、印刷、塗装などがはげることがありますのでご注意ください。また、化学ぞうきん等をお使いの場合は、化学ぞうきん等に添付の注意事項をよくお読みください。

音のエチケット

楽しい音楽も時と場所によっては気になるものです。隣近所への思いやりを十分にいたしましょう。
ステレオの音量は、あなたの心がけ次第で大きくも小さくもなります。
とくに静かな夜間には小さな音でも通りやすいものです。夜間の音楽鑑賞にはとくに気を配りましょう。近所へ音が漏れないように窓を閉め、お互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。

修理のご相談／修理についてのお問い合わせ窓口

パイオニア製品についてのご購入相談はお近くの販売店へ、修理についてはお買い求めの販売店へご依頼ください。万一お困りの場合は、窓口(裏表紙)へご相談くださるようお願いいたします。

サービスステーションリスト

サービスステーションへの電話は、修理受付センター(裏表紙)でお受けします。
（沖縄県の方は沖縄サービスステーション(裏表紙)でお受けします）

●北海道地区		受付　月〜金　９：３０〜１８：００　（土・日・祝・弊社休日は除く）	
札幌サービスセンター	FAX　011-611-5694	〒064-0822	札幌市中央区北２条西 20-1-3　クワザワビル
旭川サービス認定店	FAX　0166-55-7207	〒070-0831	旭川市旭町１条１丁目 438-89
帯広サービス認定店	FAX　0155-23-7757	〒080-0015	帯広市西５条南 28 丁目 1-1
函館サービス認定店	FAX　0138-40-6473	〒041-0811	函館市富岡町 2-18-7

●東北地区		受付　月〜金　９：３０〜１８：００　（土・日・祝・弊社休日は除く）	
仙台サービスステーション	FAX　022-375-4996	〒981-3121	仙台市泉区上谷刈石田 20
山形サービス認定店	FAX　023-615-1627	〒990-0023	山形市松波 1-8-17
盛岡サービスステーション	FAX　019-659-3165	〒020-0051	盛岡市下太田下川原 153-1
青森サービス認定店	FAX　017-735-2438	〒030-0821	青森市勝田 2-16-10
八戸サービス認定店	FAX　0178-44-3351	〒031-0802	八戸市小中野 4-3-34
秋田サービス認定店	FAX　018-869-7401	〒010-0802	秋田市外旭川字梶の目 346-1
郡山サービスステーション	FAX　024-939-1372	〒963-8861	郡山市鶴見坦 1-9-25　クレールアヴェニュー伊藤第２ビル

●関東・甲信越地区		受付　月〜土　９：３０〜１８：００　（日・祝・弊社休日は除く）	
世田谷サービスステーション	FAX　03-3419-4234	〒155-0032	世田谷区代沢 4-25-9
墨田サービスステーション	FAX　03-3621-7610	〒130-0011	墨田区石原 4-27-9　中島 IC ハイツ 1F
城北サービスステーション	FAX　03-3550-3625	〒175-0083	板橋区徳丸 4-11-14
多摩サービスステーション	FAX　042-524-5947	〒190-0003	立川市栄町 4-18-1　エクセル立川１Ｆ
高崎サービスステーション	FAX　027-322-8978	〒370-0851	高崎市上中居町 45-2
足利サービス認定店	FAX　0284-42-4376	〒326-0058	足利市元学町 831
新潟サービスステーション	FAX　025-241-1879	〒950-0913	新潟市鐙 1-5-23
佐渡サービス指定店　横山電機商会	FAX　0259-63-3400	〒952-1209	佐渡郡金井町千種 1158-1
千葉サービスセンター	FAX　043-207-2555	〒263-0015	千葉市稲毛区作草部 1369-1　椎の実ハイツ 1F
つくばサービス認定店	FAX　0298-58-1369	〒305-0045	つくば市梅園 2-2-6
水戸サービス認定店	FAX　029-248-1306	〒310-0844	水戸市住吉町 307-4
埼玉サービスセンター	FAX　048-651-8030	〒330-0038	さいたま市宮原町 1-310-1
川越サービス認定店	FAX　049-233-6581	〒350-0804	川越市下広谷 1128-11
宇都宮サービス認定店	FAX　028-657-5882	〒321-0912	宇都宮市石井町 3373-1
神奈川サービスセンター	FAX　045-943-3788	〒224-0037	横浜市都筑区茅ヶ崎南2-18-1　ベルデユール茅ヶ崎
横浜北サービス認定店	FAX　045-943-3155	〒224-0036	横浜市都筑区勝田南 1-19-17
厚木サービス認定店	FAX　046-224-7724	〒243-0807	厚木市金田 339-1　金田コーポフロンテア 201
三宅島サービス指定店　勝見電機	TEL　04994-6-1246	〒100-1211	三宅村大字坪田
松本サービスステーション	FAX　0263-48-2768	〒390-0852	松本市大字島立 180-5
長野サービス認定店	FAX　026-229-5250	〒380-0935	長野市中御所 1-24
甲府サービス認定店	FAX　055-228-8003	〒400-0035	甲府市飯田 4-9-14

●中部地区		受付　月〜金　９：３０〜１８：００　（土・日・祝・弊社休日は除く）	
名古屋サービスセンター	FAX　052-532-1148	〒451-0063	名古屋市西区押切 2-8-18
津サービス認定店	FAX　059-213-6712	〒514-0821	津市垂水 522-5
岡崎サービス認定店	FAX　0564-33-7080	〒444-0931	岡崎市大和町字荒田36-1　大和ビレッジ　B-1
岐阜サービス認定店	FAX　058-274-5256	〒500-8356	岐阜市六条江東 1-1-3
静岡サービスステーション	FAX　054-237-5691	〒422-8034	静岡市高松 1-6-5
沼津サービス認定店	FAX　0559-21-9050	〒410-0058	沼津市沼北町 1-14-26
浜松サービス認定店	FAX　053-422-1401	〒435-0042	浜松市篠ヶ瀬町 415　ビラモデルナ５号
金沢サービスステーション	FAX　076-291-6425	〒921-8005	金沢市間明町 1-130
富山サービス認定店	FAX　076-425-3027	〒939-8211	富山市二口町 1-7-1
福井サービス認定店	FAX　0776-27-1768	〒910-0001	福井市大願寺 3-5-9

●関西地区

受付　月〜金　9：30〜18：00（土・日・祝・弊社休日は除く）

名称	FAX	所在地
大阪サービスセンター	FAX 06-6353-1145	〒530-0035 大阪市北区同心2-1-26
大阪南サービス認定店	FAX 0722-75-2625	〒593-8322 堺市津久野町1-8-15 ローズマンション1F
大阪北サービス認定店	FAX 06-6453-5666	〒531-0076 大阪市北区大淀中3-9-4
奈良サービス認定店	FAX 0742-36-8713	〒630-8132 奈良市大森西町21-26
和歌山サービス認定店	FAX 0734-46-3026	〒641-0021 和歌山市和歌浦東3-1-25
京滋サービスステーション	FAX 075-682-7176	〒601-8448 京都市南区西九条豊田町24-1
福知山サービス認定店	FAX 0773-24-5375	〒620-0055 福知山市篠尾新町2-74 カマハチマンション
神戸サービスステーション	FAX 078-251-7173	〒651-0086 神戸市中央区磯上通り5-1-13
姫路サービス認定店	FAX 0792-51-2656	〒671-0224 姫路市別所町佐土4-2

●中国地区

受付　月〜金　9：30〜18：00（土・日・祝・弊社休日は除く）

名称	FAX	所在地
広島サービスステーション	FAX 082-227-4866	〒730-0013 広島市中区八丁堀2-31 鴻池ビル
徳山サービス認定店	FAX 0834-33-5759	〒745-0006 徳山市花畠町3-11 森広事務所1F
福山サービス認定店	FAX 0849-31-2791	〒720-0815 福山市野上町3-12-9
岡山サービスステーション	FAX 086-244-8748	〒700-0975 岡山市今8-15-21
松江サービス認定店	FAX 0852-22-7779	〒690-0017 松江市西津田4-5-40 (有）テクピット内
鳥取サービス認定店	FAX 0857-29-1290	〒680-0061 鳥取市立川町5-240-1

●四国地区

受付　月〜金　9：30〜18：00（土・日・祝・弊社休日は除く）

名称	FAX	所在地
高松サービスステーション	FAX 087-861-4841	〒760-0078 高松市今里町1-16-1
徳島サービス認定店	FAX 088-669-6076	〒770-8023 徳島市勝占町中須92-1 大松ジョリカ地下1階103号
高知サービス認定店	FAX 088-802-3321	〒780-0051 高知市愛宕町3-12-13 晃栄ビル1F
松山サービス認定店	FAX 089-951-6270	〒791-8067 松山市古三津5-10-35 商船ビル1F

●九州地区

受付　月〜金　9：30〜18：00（土・日・祝・弊社休日は除く）

名称	FAX	所在地
福岡サービスステーション	FAX 092-412-7460	〒812-0016 福岡市博多区博多駅南2-12-3
博多サービス認定店	FAX 092-461-1643	〒812-0006 福岡市博多区上牟田2-6-7
長崎サービス認定店	FAX 095-849-4606	〒852-8145 長崎市昭和1丁目12-10 クリスタルハイツ平野
熊本サービス認定店	FAX 096-331-3323	〒862-0918 熊本市花立5丁目14-17
大分サービス認定店	FAX 097-549-2420	〒870-0889 大分市大石町5丁目1-1
北九州サービスステーション	FAX 093-951-1748	〒802-0011 北九州市小倉北区重住3-1-20
鹿児島サービスステーション	FAX 099-224-7692	〒892-0841 鹿児島市照国町3-21 第二大見ビル2F
宮崎サービス認定店	FAX 0985-27-3136	〒880-0821 宮崎市浮城町98-1

●沖縄地区

受付　月〜金　9：30〜18：00（土・日・祝・弊社休日は除く）

名称	TEL/FAX	所在地
沖縄サービスステーション	TEL 098-879-1910 FAX 098-879-1352	〒901-2122 浦添市勢理客4-18-1 トヨタマイカーセンター3F

修理窓口・ご相談窓口の名称・所在地・電話番号は変更することがございますのでご了承ください。

愛情点検

長年ご使用のオーディオ製品の点検をおすすめいたします。こんな症状はありませんか?
- **電源コードや電源プラグが異常に熱くなる。**
- **電源コードにさけめやひび割れがある。**
- **電気が入ったり切れたりする。**
- **本体から異常な音、熱、臭いがする。**

すぐに使用を中止し、電源プラグをコンセントから抜き、故障や事故防止のため電気店または、お近くのパイオニアサービスステーションに点検(有料)をご依頼ください。

製品のご購入や取り扱いについてのご相談窓口

● **パイオニア・カスタマーサポートセンター**（全国共通フリーフォン）

受付　月曜～金曜　9：30～17：00、 土曜　9：30～12：00、13：00～17：00 （日曜・祝日・弊社休日は除く）

家庭用オーディオ／ビジュアル製品のご相談窓口 ： フリーフォン **0070-800-8181-22**

カタログのご請求窓口 ： フリーフォン **0070-800-8181-33**

ファックス ： **03-3490-5718**

<ご注意>
フリーフォンは、ＰＨＳ、携帯電話、自動車電話、列車公衆電話、船舶電話、ピンク電話および海外からの国際電話ではご利用になれません。あらかじめご了承ください。

パイオニアホームページでのご案内

お問い合わせ先のご案内　*http://www.pioneer.co.jp/support/*

カタログ請求とメールサービス登録のご案内　*http://www.pioneer.co.jp/support/ctlg/index.html*

部品のご購入についてのご相談窓口

付属品（リモコン・取扱説明書など）のご購入や、補修用性能部品（修理使用部品）に関するご相談についてはパイオニア部品受注センターにご相談ください。部品の交換方法などの技術相談につきましては下記のパイオニア修理受付センターにご相談ください。

● **パイオニア部品受注センター**

受付　月曜～金曜　9：30～18：00、 土曜　9：30～12：00、13：00～17：00 （日曜・祝日・弊社休日は除く）

電話（フリーダイアル） ： **0120-5-81095**

一般電話 ： **0538-43-1161**

ファックス（フリーダイアル）： **0120-5-81096**

<ご注意>
フリーダイアルは、携帯電話、ＰＨＳではご利用になれません。あらかじめご了承ください。

修理のご依頼／修理についてのご相談窓口

修理を依頼される前に取扱説明書の「故障かな？と思ったら」の項目をご確認ください。それでも異常のある時は、必ず電源プラグを抜いてから、ご購入店へご連絡ください。

ご購入店がわからないときやお近くにないときは、パイオニア修理受付センターへご相談ください。（沖縄県を除く）

● **パイオニア修理受付センター**（沖縄県を除く全国）

受付　月曜～金曜　9：30～20：00、 土曜　9：30～12：00、13：00～18：00 （弊社休日は除く）

日曜・祝日　9：30～12：00、 13：00～18：00 （プラズマテレビのみ受付）

電話（フリーダイアル） ： **0120-5-81028**（ゴーパイオニア）

一般電話 ： **03-5496-2023**

ファックス（フリーダイアル）： **0120-5-81029**

<ご注意>
フリーダイアルは、携帯電話、ＰＨＳではご利用になれません。あらかじめご了承ください。

● **沖縄サービスステーション**（沖縄県のみ）

受付　月曜～金曜　9：30～18：00 （土曜・日曜・祝日・弊社休日は除く）

一般電話 ： **098-879-1910**

ファックス ： **098-879-1352**

高調波ガイドライン適合品

パイオニア株式会社　〒153-8654 東京都目黒区目黒1丁目4番1号

<03G000001>

<5707210180250>